

## 2021年2月6日(土) 大岳山(1266m)

奥多摩三山(\*)の一つである大岳山に登りました。この山は200名山の一つでもあります。  
(奥多摩三山；大岳山、御前山、三頭山)

極寒期の大岳山では木の芽などの食べ物が少なくなり、野鳥が手のひらに載った餌を求めて、恐れもせずに人の手に乗ってくるのだそうです。布目さんからは、ご本人の手の上に乗っている野鳥の写真を見せてもらいました。今回もそんな体験が出来たら、最高の登山になりそうです。

一月に関東では雪が降りましたから残雪が凍っている可能性もあり、安心のために軽アイゼン必携としました。参加したのは、布目さん、岡部さん、堀さん、池戸さん、文ちゃん、根岸さん、そして吉松の7人です。

レポート：吉松



「おくたま1号」に乗り合わせたのは、池戸さんと吉松の2人

人が少なくて寂しい駅ではあったが、木彫りの駅名が掲げてあつたりして、中々風情がある。



レトロな郵便ポストも懐かしい。





他の 5 人は青梅線各駅電車でやってきて、御嶽駅バス停で全員が集合した。

西東京バスで、ケーブル下（滝本）へ移動



バスに揺られて 10 分ほどでケーブル下に到着



ケーブルカー（御嶽登山鉄道）滝本駅へ向う。

道案内には全く不安が無い。  
何しろ布目さんは、大岳山登山歴 15 回というからすごい！！



滝本駅 9 時発のケーブルカーに乗り込んだ。往復運賃 1130 円。





このケーブルカーは創業 1935 年（昭和 10 年）。戦争で一時運休の時期もあったが、1951 年（昭和 26 年）に再開されて今日に及んでいる。

全長 : 1107 m

高低差 : 424 m

平均勾配 : 22 度（関東最大）

最高勾配 : 25 度



約 6 分で終点御嶽山駅に到着



駅舎を出たところで、恒例により岡部さんの指導で準備体操



9 時 15 分

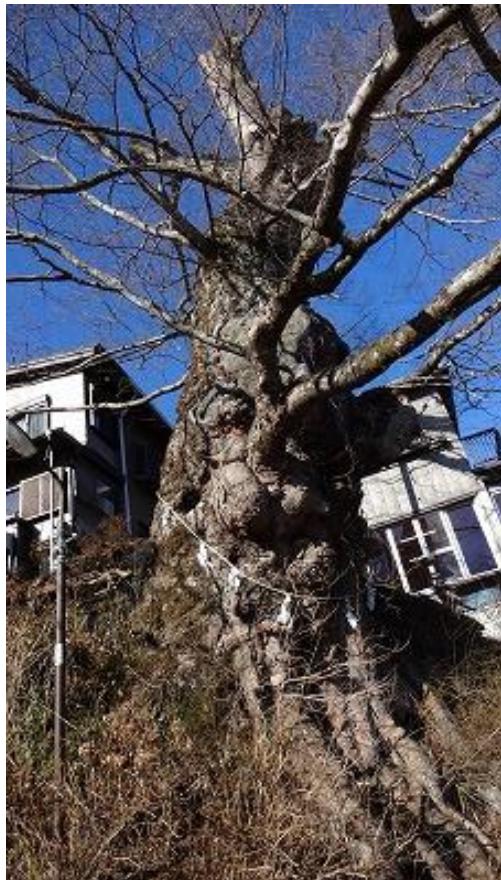
武藏御嶽神社への歓迎アーチを通って一先ず神社でお参りすることにした。参道には、蝱梅の花がチラホラと咲いていた。



武藏御嶽神社の創建は崇神天皇（第10代天皇）の時代と伝えられ、古くから関東の靈山として信仰されてきている。今多くの信者を擁していて、案内板にはその方々を迎えるための24の宿坊が紹介されていた。

2009年9月、クマさん会の一行が下山時に体を休めた憩山荘もその一つだ。S社社員の実家であったご縁でお世話になったそうだ。

歴史を感じさせるそんな宿坊を眺めながら、参道をのんびりと歩いた。



参道脇にドッカリと根を下ろした神代ケヤキ  
樹齢は推定一千年



やがて石造りの大鳥居が現れた。  
大鳥居をくぐり、石段を登ったところに朱塗りの「隨身門」が見える。



「隨身門」を抜けたその先の参道には、信者が建てた「講」の碑が所狭しと並んでいた。





更に石段を登り切ったところが御岳山  
(929m)

武藏御嶽神社本殿がどっかりとした構えで  
建っている。  
三々五々、お参りを済ませた。



安全登山の祈願を済ませ、下りの石段途中から「奥の院」に向う登山道に入った。



足下には1月に降った雪が少し残っている。



10分ほど歩くと、「天狗の腰掛け杉」が現  
れた。この杉のことは、浅田次郎作「神座  
す山の物語」にも出てくる。

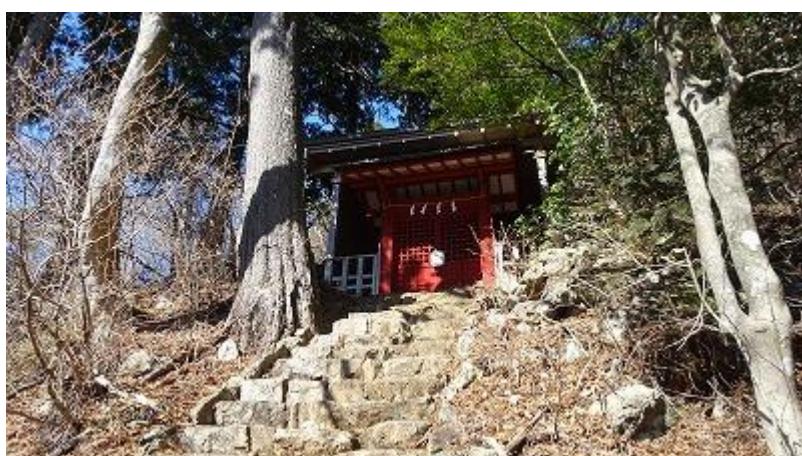


「天狗の腰掛け杉」から「奥の院」へ向う道辺りから、やっと登山道らしくなってきた。  
「奥の院」の鳥居前で集合写真を撮った。



鳥居から奥の院までは40分ほど。

途中鎖場なども有って楽しめる登山道だが、真冬の所為で野草などに出会わないのが、やや残念！



10時40分過ぎに「奥の院」のお社に到着

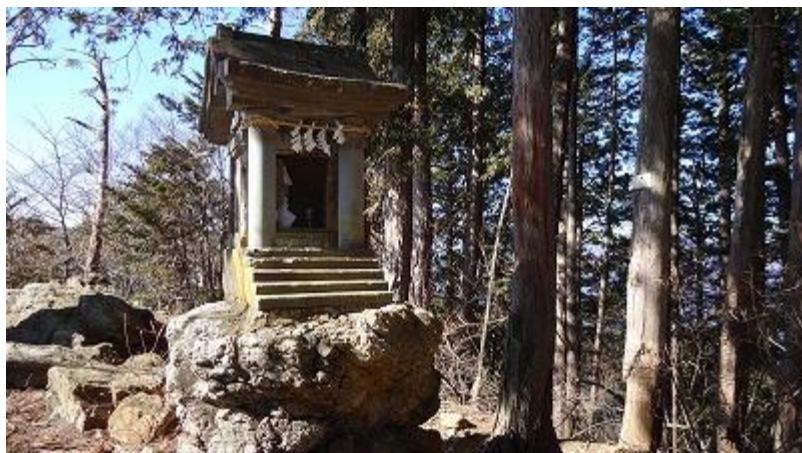
以前来たことのある布目さんや堀さんによると、建物が大分新しくなっていてイメージが違うとのことだった。



お社の脇で暫しの休憩

\*なお、布目さんと堀さんとは、「記憶にある奥の院とはイメージが違う」と、相変わらず首をかしげている。

一息入れたあと、お社脇を10分も登るとどうやら本物の「奥の院」の祠に出会った。  
これが目指していた「奥の院」のようだ。



奥の院峰（1077m）に建てられた祠  
布目、堀両氏も納得のようだ。



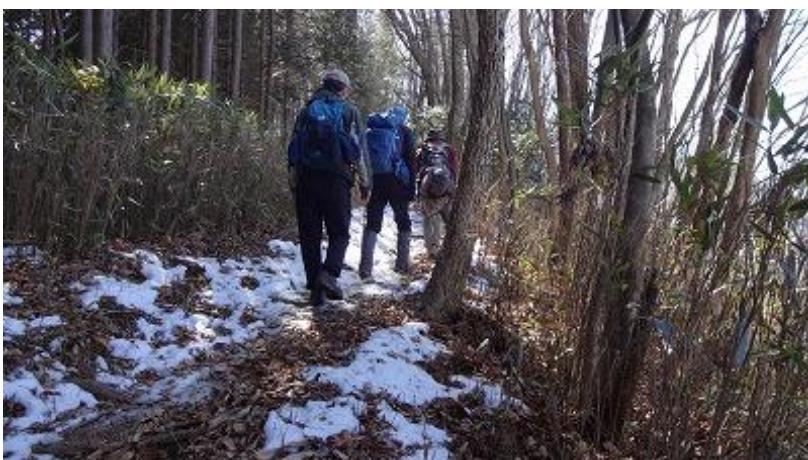
奥の院峰から鍋割山まではすぐの距離だが、気をつけなければいけない痩せ尾根を通る。



日の当たっていない参道には雪が残っていた。  
幸いに、この辺りは凍っている箇所が少なかった。



15分ほどで鍋割山（1084m）に到着



鍋割山からは、90分ほどで大岳山山頂に立つことが出来る。

予定では、12時40分に到着だ。

日陰では、少しずつだが残雪が目立ってきた。



日の当たっているところは、ご覧のように雪はすっかり溶けて無いのだが・・・



11時50分頃、登山道が登りになる辺りから残雪が増えて、道も凍っていた。

安全の為に、持参の軽アイゼンを装着することにした。

軽アイゼン必携ではあったものの、恐らく装着せずに済むだろうと甘くみたのが大変まずかった！！  
アイゼンの具合の事前チェックや装着確認をしないままに山に来たものだから、取り付けに四苦八苦

- ・岡部さんは、池戸さんに手助けをしてもらっていた。留め金の引っかかり具合が悪いようだ。
- ・布目さんも、ウンウン言いながら装着に苦戦
- ・堀さんは装着してはみたものの、歩き始めたら踵の辺りからすぐに外れてやり直し
- ・吉松は、硬質ゴムが切れてしまって締めることができなくなってしまった。
- やむなく堀さんから借りた靴紐で縛って、何とか体裁を整える次第であった。

油断大敵とはこのことかと、大いに反省した。



装着に手こづって20分ほど時間をロスしてしまったか？

それでも、アイゼンさえ付ければ凍った場所も安心だ。



途中、アイゼンも付けずに登っているグループもいたが、見るからに苦労をしているようだった。

我々は、順調に登ってきた。



12時半過ぎに、現在休業中の「大岳山荘」脇を通過

各自一息入れてもらって、大岳山への最後の登り坂に臨むことにした。



池戸さん、岡部さん、文ちゃん、吉松は一足先に出発

「大岳神社」の前を通過してから山頂に向った。



途中、何カ所かに岩場があり、軽アイゼンを付けているためにかなり登りにくい。

用心をして、ゆっくりと登った。

12時55分、先発組4人は大岳山（1266m）山頂に到着

既に何組かの登山者はいたが、その数は少ないので山頂が広々と感じられた。

山頂からは、実に見事な富士山を眺めることが出来た。クマさん会では、今年一番の容姿であったかも知れない。





やがて、あとに続くメンバーも元気に登頂

暖かい日を浴びながら早速昼食を摂ることにした。

\*文ちゃんからの日本酒差し入れ、美味しかったです。

\*布目さん、岡部さんの豪華総菜、果物の差し入れも遠慮無く頂戴しました。  
いつも有り難うございます。



風も無く、山頂は暖かかった。

布目さんには折角野鳥用の餌を準備して頂いていたのだが、肝心の鳥が近くに居なかつた。残念！！

ウィキペディア情報では、冬場に人によってくる鳥は、警戒心の薄いジョウビタキらしい。冬の渡り鳥として日本全国に飛来する。



13時半位まで山頂でゆっくりして、下山を開始



登りで軽アイゼンを付けたあたりで、全員アイゼンを外した。下りは鍋割山を迂回する道を選んだ。

布目さんからは、迂回道の一ヵ所だけ、日が当たらない箇所があるとのことだったが・・・・

案の定ここで外してしまったのは、少々早過ぎた。



布目さんが言っていた、日当たりの悪い下り道に差し掛かった。  
やっぱり路面は凍っていた。下手に滑れば谷の方に転がっていきそうだ。

布目さん、岡部さんは3回くらい転けたか？

布目さんが、雪が無くなる最後の最後あたりで転けたのを、遠目ながら吉松はしっかり見てしまったのだ。

用心のために、何人かは再びアイゼンを装着する羽目になった。



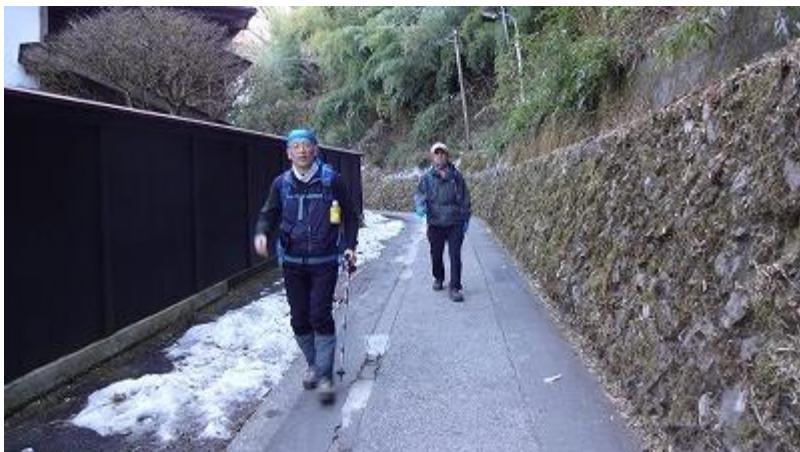
残雪のあった下りを抜けると、あとは快適であった。



ケーブルカー御嶽駅まで2.4kmの地点



御嶽駅まで 1.4 km の地点を通過



多くの宿坊のある辺りを抜けると、もうすぐ御嶽駅だ。



3時45分発のケーブルカーに乗り込む。

予定乗車時刻よりも 30 分の遅れ  
登山道凍結の為に取られる時間を、充分読み込んでいなかったのが遅れの原因であった。



ケーブルカー滝本駅から西東京バスに乗り継いで、青梅線御嶽駅へ移動した。  
一風呂浴びて汗を流すのは、青梅線河辺駅の「河辺温泉 梅の湯」  
文ちゃんと根岸さんは、所用の為に入浴はバスすることになった。



御嶽駅で列車を待つ。

ここで根岸さんとはお別れ  
文ちゃんとは河辺駅で別れることになった。



4時50分

河辺駅から歩いて1分の「河辺温泉 梅の湯」に着いた。

「泉質はアルカリ性、子どもの肌のように  
しっとり」がうたい文句の湯であった。



時間を気にせずに、ゆっくりと湯に浸かった。うたい文句の通り、良い温泉であった。



湯上がり後は、温泉食堂「梅寿庵」で一献

生ビール540円を特別価格270円で提供していた。この生ビールは実に上手かった。何しろ布目さんが言うのだから間違いない！

つまみはアラカルト。少しずつ沢山頼んで、皆で突いた。これも結構なお味ありました。



ゆっくり一献を楽しんで、帰路についた。  
6時35分河辺駅発の青梅線はガラガラであった。

期待していた野鳥との素晴らしい遭遇はありませんでしたが、日差しが穏やかで風も無く、楽しい登山でした。特に富士山の眺めは、今年に入ってからのクマさん会登山の中では絶品だったように思います。

アイゼン取り付けに関する一寸した騒動はありましたが、無事に下山出来ましたので、それもご愛敬としておきましょう。奥多摩にはまだまだ楽しめる山が沢山有るようthoughtいました。

### 【最後に、幾つかのエピソードをどうぞ・・・】

\*最初の計画では、宿坊「山香荘（さんこうそう）」で汗を流す予定でした。偶々、この日は閉館していました。ここは、作家浅田次郎氏ご母堂の実家で、著作「神座す山の物語」が書かれた原点のような場所です。原稿などを展示したコーナーもあるようです。またの機会の楽しみにしたいです。

#### \*うっかり岡部さんのこと・・・

湯上がりの生ビールは本当に最高でした。布目さんに勧められて一口飲もうとしていた岡部さんではありましたが、実は自宅から最寄り駅まで自家用車で来ていたそうな。  
うっかり飲めば、減点＆罰金の憂き目に遭うところでした。本人大慌て、周りはビックリ。

#### \*まさか、布目さんが・・・

電車の中の布目さん（最後の写真）は嬉しそうですね。大岳山登山15回、満足そうですね。

ところで、写真ではよく分かりませんが、実は濡れていたのです、履いているズボンが・・・。  
すわ大変だ！ まさか布目さんが、お×ら×か？  
(これ以上は書けませんので、知りたい方は直接ご本人にご確認ください。)

#### \*立川駅でのこと・・・

堀さん、池戸さん、吉松は立川駅で南部線に乗り換えることになりました。まだ続く道中なので、トイレに入りました。

幾ら待っても堀さん一人が出てこないのです。

どうしたのか吉松が見に行ったのですが、既にトイレの中に居ないです。池戸さんと二人でどうしたものかと首をかしげて思案していると、暫くして出てきました。

なんと！！ 温泉から上がった後に履いた下着が、前後逆だったそうなのです。小便器の前でどうあがいても二進も三進もいかなくなり、やむを得ず大便器の方に入つて格闘していたとのことでした。

### 【布目の名前そのための蛇足】

「まさか布目さんが、お×ら×か？」とは書きましたが、勿論「お×ら×」ではありませんでした。

ザックに仕舞った飲み物の蓋がキチンと締めてなかった為の、うっかりミスでした。ご本人名前のために付記しておきます。